

## 週報

## こひつじ

第39巻 22号  
 大津キリスト教会  
 菊池郡大津町室 119  
 TEL 096-293-4470  
 FAX 096-293-4961  
 牧師 米村 英二

## 今も働くわれらの父

## その二 子も働いておられる

以上が自然のための神の働きなら、空の鳥や野のゆりにまさるわれわれ人間のためにはどんな働きを神はされているのだろうか。

「私がおまえの父である」とおっしゃってくださいている。その言葉ほど私の心を慰めてくれるものがあつたのだろうか。

「我は我が造られし事、わが保たるる事、御子イエス・キリストを識るを得し事を感謝する」

私も彼とともに以上の三つを感謝する。

私の起源は肉の父母にはない。神にある。そして神は、そんな私を使命をもった存在として造ってくださったのである。

「私が造られし事、わが保たるる事、御子イエス・キリストを識るを得し事を感謝する」

「私がおまえの父である」とおっしゃってくださいている。その言葉ほど私の心を慰めてくれるものがあつたのだろうか。

「わたしは、あなたの信仰がなくなるに、あなたのために祈りました」(ルカ二二の三二)

毎日見る光景だけれど、自然は

何ゆえ御神は かかる身をも  
 神の子とせしか 知るを得ねど

大祭司としての祈り、それがイエスの働きである。

と、聖歌四五〇番にあるが、それはまさしく私自身のことである。ことなく、いつも祈ってください

私のように始められた良いわざをう。

キリスト・イエスの日までに完成してくださることだろう。

このように神は今も私のために働き続けてくださっているのである。

けれど、神だけではない、イエスもまた働いておられる。

「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです」と。

死んでよみがえって天に上り、父の右の座につかれたイエスは今大祭司として私たちのためにとりなしておられるのである。

イエスはあるときペテロに言われた。

「わたしは、あなたの信仰がなくなるに、あなたのために祈りました」(ルカ二二の三二)

始め、太陽が姿を現わす。彼らはみな、時にしたがって、それぞれ自分らしく働き、われわれ人間の目を楽しませてくれる。

毎日見る光景だけれど、自然は

「わたしは、あなたの信仰がなくなるに、あなたのために祈りました」(ルカ二二の三二)

毎日見る光景だけれど、自然は

みな置かれたところで神の定めにしたがって、朝ごとになすべきことをやっているのだとつくづく思う。

今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から、教会学校は午前10時からこひつじ館で。

○説教は西岡潤也さん。

○証は長岡舞子さん。

先週の礼拝

○司会は宮元隆博さん。

○奏楽は吉岡裕美さん。

○説教は民教記九の一八から、神に導かれる人生について。

イスラエルの民は雲が上ると旅立ち、雲がとどまると宿営しました。そのようにして彼らは神に導かれる人生がどういふものかを学んだのです。

人生には二種類あります。自分で選んだ道を歩む人生と、神に導かれる人生です。

両者の一番の違いはどこにあるかと云えば、前者には、恐れと不安がつきまとうのに対して、後者には、それが無いということです。

ではどうしたら、恐れや不安のない、神に導かれる人生を歩むことができるのでしょうか。先週はそれについて語りました。

先週の出席

○第一礼拝が四五名、第二が四六名、合計九一名(男三四、女五七)。子ども二二名。合わせて一〇三名。

○アメリカのポートランドから横井夫妻が参加してくださいました。マイク横井牧師の三男の方です。横井牧師の奥様は西原村の出身で、木下美樹さんの叔母さんにあたります。

小集会報告

コロナが収まりつつある中で、いくつかの集会が行なわれるようになりまして。すでに行なわれたのは以下の通り。いずれも次回

未定、わかりしだい案内します。

○若い母親の会(教会) 五月二三日(火) 午前10時。

○吹田集会(教会) 五月二四日(水) 午後一時半。

○菊陽集会(高宮宅) 五月三日(火) 午後一時半。

○西原集会(石山宅) 六月二日(金) 午後二時。

牧師身辺

静岡県掛川市で伝道しているジョンさんから久しぶりにメールが来しました。お母さんのロイスさん(アメリカ在住)が一〇〇歳を迎えるので、そのお祝いに一週間ほどアメリカに帰るとのことでした。幸子さんは、独身時代、ポストロムさん家族と五年間いっしょに住み、通訳などのお手伝いをしていました。ジョンさんはその頃は、まだ五、六歳だったでしょう。

お父さんのジョージ・ポストロムさんは、説教もすばらしかったのですが、何よりも祈りの人でした。ぼくたち当時の若い伝道者たちはみな、ポストロムさんのすぐ

れた人格に憧れを感じていましたので、六四歳の若さで天に召されたときは、実に大きな人を失ったような気持ちでした。

妻のロイスさんは、その後、三四年、成長した子どもさんたちと伝道を続けられ、こうして一〇〇歳を迎えられたのだと思います。ぼくたちからの祝福もお伝えくださいとジョンさんへのメールに書きました。

ジョンさんのことは覚えておられると思いますが、熊本地震の時は、だれよりも先に、静岡から車を飛ばし、必要物資を届けてくれました。まだ余震が続く中、被災者の家の屋根にブルーシートをかけてくれたことも思い出します。

ジョンさんの奥さんは日本人で、ふたりの間に三人の子どもがいます。長男のジョージさんは、すでに社会学部を卒業して、日本の外務省に入り、外交官として活躍しておられます。

牧師のメールアドレス。

yonemura@ja2.so-net.ne.jp